



動物病院

ニュースレター

2021年1月号

2021年 あけましておめでとうございます

皆さま、年明けはいかがお過ごしでしょうか？
新型コロナウイルス感染拡大の危険もあるので
今年は体調を崩さないよう
飼い主さんも、ワンちゃん、猫ちゃんも
より免疫力を高めていきましょう！

ペットと車で移動・お出かけするときのコツ

年末年始の帰省や冬休みの旅行で、
ペットと一緒に車移動をする飼い主さんも多くいらっしゃいます。

なかなか車移動に慣れずに、車酔いをするといったお悩みを聞きますが、
今回は移動中の気をつけるべきポイントをおさえて、
ぜひ楽しいお出かけにしてもらえそうなコツをご紹介します。

そもそも車酔いの原因とは？

車酔いは自動車特有の振動や加速・減速による遠心力などによって、視覚から入ってくる情報と傾きを感知する内耳の情報伝達にずれが生じ、脳内でうまく統合されないため、自律神経が乱れて起こります。

空腹や満腹状態では車酔いをしやすくなります。
出かける直前の食事は避け、食事量は軽めにしましょう。

揺れに弱い子はシートベルトを活用したり、
体勢が保持出来るトラベルキャリーに入れたりしましょう。
キャリーは運転中に動かないようにしっかりと固定してください。



キャリーを嫌がる場合もありますが、広い場所に座らせると、揺れや傾きに合わせて常に体のバランスを取らねばならず、疲れてしまいます。
ドライブボックスに座らせ、隙間をタオルや小振りのクッションなどで埋めると踏ん張りをせずに楽に座ることができます。

運転の仕方についても急発進や、急ブレーキなどは止めて、
発進停止はなめらかに、スピードを調節したコーナーリングで
優しい運転を心掛けましょう。

もし吐いても大騒ぎせずに、静かに片付けてください。
悪いことをしているわけではないので叱ることも厳禁です。

吐くのではないかとピリピリしていると、その緊張がペットに伝わります。
プレッシャーを与え続けると、車に乗ることが堪え難い苦痛になってしまいます。
心配している素振りを見せないよう、リラックスした姿を見せてあげてください。

ペット用の酔い止め薬は市販品と動物病院で処方してもらうものがあります。

どちらも効き目に個体差がありますし、はじめは動物病院に相談しましょう。

ドライブ中に注意することは？

車内の換気や温度、日差しにも気をつけ、長距離の移動は休憩をはさみましょう。
休憩の時間は1～2時間内に1回くらいが適当です。

高速道路には休憩スポットが、約20kmごとに設置されています。
大人しく車に乗っていたペットも、休みたかったり水が欲しかったり、
トイレが近くなったりするとソワソワし始めますので、
案内標識が見えたら休憩にしましょう。

楽しいドライブになるよう、ペットの健康を第一に考えてあげましょう！



学べるワンニャン語クイズ



問題1：ワンちゃんがごはんを噛まずに丸のみするのはどうして？

(答えはページ下です。)

- ① 歯にすりつぶす機能がない
- ② お腹がすいたから
- ③ いつものフードに飽きたから



問題2：猫ちゃんがお客様の荷物にオシッコをかけた！どうして？

(答えはページ下です。)

- ① こわいから
- ② ストレスがたまっていた
- ③ 犬派の人だから



答え

問題1：① ワンちゃんの歯にはすりつぶす機能がないので、飲める大きさまで噛み砕いたら、そのまま飲み込んで胃で消化します。

問題2：① 猫ちゃんは見知らぬ人や物のおいに恐怖を感じます。自分のテリトリーにそのおいが入ってくると、自分のおいで消そうとします。

1. 本能的にやってしまう

猫じゃらしに夢中になるのも同居猫と追いかけてこをするのも、猫にとっては狩りごっこです。

獲物を狩る時には噛みついたりパンチをしたりするだけでなく、獲物をつかまえてからキックをして攻撃をすることもあります。

これは本能的な動きなので、遊んでいる時に飼い主さんにもキックしてしまうのです。また飼い主さんの動く洋服や、歩く足などが気になってしまい、つい狩りモードになってしてしまうこともあります。

出展 <https://gunosy.com/>



2. 一緒に遊んでほしい

猫はひとりでも遊びますが、飼い主さんに遊んでほしいと思うこともあります。猫同士の遊びはどちらかの猫がじゃれついて始まることが多いので、自分からじゃれつくことで「遊ぼう!」と誘っているのかもしれない。

3. イライラしている

猫ちゃんをイライラさせてしまったときにもキックをお見舞いされることがあります。イライラサインである「唸る」「イカ耳」「しっぽをブンブン振る」などが見られたらイライラの猫キックかもしれません。

キックの対処法

1. おもちゃに気をそらせる

キックの状態から無理に手足などを引っ込めようとすると、引っ込めようとするものを逃したくないと、猫ちゃんがヒートアップしてしまいます。

キックを止めてほしい時には、猫ちゃんの興味を別のおもちゃにそらすと回避しやすいです。猫がキックしやすいぬいぐるみ等があると猫ちゃんも思いっきり遊べます。

2. 距離を置いてクールダウンしてもらう

猫ちゃんは急激に興奮しやすい動物です。興奮すると飼い主さんですら手が付けられない状態になってしまう恐れがあります。そのため猫ちゃんが楽しさや怒りで興奮してる場合は、一度距離を置くのが良いでしょう。

3. イライラモードなら構わない

この時の猫ちゃんはイライラで興奮しているので、遊びに誘うと興奮をさらに増幅させてしまう恐れがあります。キックの気持ちを正しく読み取った対応が必要です。

犬は自分の言葉を理解してくれていると飼い主さんは思うかもしれませんが、実は単語を正確に聞き取っているわけではないという調査結果が発表されました。

犬は「人間のような」聴覚能力を持っているものの、人間のように単語と単語の微妙な違いを聞き分けることはできないと研究チームは解説しています。



出典 <https://news.livedoor.com/>

ハンガリーのエトベシュ・ロラード大学の研究チームが飼犬を使って実験を実施しました。

方法としては犬の頭に電極を貼り付けて脳波を測定し、脳の活動を調べました。

実験では録音した音声を再生して、犬が覚えている「sit（お座り）」などの指示言葉と、「sut」のように発音が似ていて意味のない単語、さらには「bep」のように全く発音が異なる意味のない単語を聞かせて反応を調べました。

その結果、犬が覚えている指示言葉と、発音が全く異なる意味のない単語との違いははっきりと聞き分けられることが分かりました。

「犬が覚えている指示言葉を聞かせた時と、全く発音が異なる意味のない単語を聞かせた時では、脳の活動が異なります。つまり、犬はそうした単語を認識していた」と研究者は解説します。

しかし、発音が似ている意味のない単語との違いは認識せず、自分が覚えている指示言葉と同じ単語として処理していました。

「犬は発話された全ての音声に注意を払っているわけではなさそうだ」「普通の犬が一生のうちに学習できるのは、少数の指示言葉にとどまる」と研究者は解説します。

ただし、犬が本当に人間の言葉に耳を傾けていることや、聞いたことのない人の声にも反応することは確認できたとしています。

1. 飼い主さんのニオイがするから

洗ったばかりの洗濯物でも大好きな飼い主さんのニオイは付いています。

大好きな飼い主さんのニオイがする洗濯物の上でスリスリゴロゴロする猫ちゃんたちは、とても幸せに気分に入っているのだと思います。そのまま寝てしまうことも！

2. 自分のニオイを付けている

1とは異なり、洗濯すると自分の付けたニオイが薄れてしまったと感じる猫ちゃんもいます。

そんな時は洗濯物の上に乗ってスリスリすることで、飼い主さんの服に自分のニオイを上書きして「飼い主さんは自分のもの！」とアピールしているのかも知れません。

このようにマーキングをするという理由から、洗濯物の上に乗ったりスリスリすることもあるのです。

3. ふわふわしたものが好き

取り込んだばかりの洗濯物はとても暖かく、ふわふわです。暖かい場所や物が大好きな猫ちゃんにとって、それはとても良いベッドに感じるのかも知れません。

洗濯物を発見するとすぐにその上で寝てしまう猫ちゃんたちは、ちょうど良いベッドを発見したかのような気分なのでしょう。

対策としては3つ、

1. 洗濯物を置いておかない
2. 代わりになるベッドを用意する
3. 洗濯物が置いてある部屋に入れない



出典 <https://news.livedoor.com/>

上記のような対策も必要になってくるかも知れません。またどのような対策をしても効果がない場合には諦めてしまうのも一つの手です。

猫ちゃんと飼い主さんの間で妥協しなければいけない場合もありますが、うまく折り合いをつけるべき点だと思われます。



本の広場

愛犬と 20 年いっしょに暮らせる本

星野浩子 著



ワンちゃんの平均寿命は 14 歳です。

人間と同じで、高齢になると病気や体調不良が出てきて、「13 歳の壁」を乗り越えられるかがポイントとなります。

西洋医学では「トシだから仕方ない」と言われてしまう病気や不調を、著者は東洋医学の治療で改善してきました。

出典 <https://www.amazon.co.jp/>

飼い主さんが自宅でできるケアとして、マッサージとお灸、季節の過ごし方、食の養生法の 3 本立てをご紹介します。

ドッグフードの選び方、手作りごはんレシピなどお役立ち情報も満載で、17 歳のダックスがお灸で元気を取り戻し、いまでも走れる臨床例などものっています。

**愛する我が子の東洋医学ケアに興味がある方に
ぴったりの一冊です。**